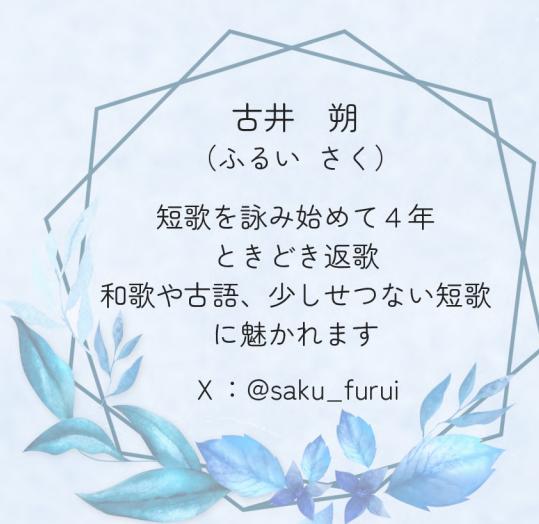




- 1 微かなる歌声とどく砂丘には微笑むような優い風紋
／古井 朔
- 2 風紋をくずして進むきみの背に届かなくつて風の音だけ
／一ノ瀬美郷
- 3 手づかみでたしかめてる心臓の熱れた赤さに猛禽の性 『さが』
／綿鍋和智子
- 4 心臓のかたちを思い出すためにあばらの上を指で押さえる
／古井 朔
- 5 ふれられしその紅血な指先の拍動熱く心耳を澄ます
／古井 朔
- 6 其々にひとつ銀河を内包し細胞膜の連なるからだ
／川瀬十萌子
- 7 細胞のひとつひとつがアポトーシスをプログラミング 死は叢りて
／古井 朔
- 8 ぬばたまの夜にファスナー縫い付ける銀河鉄道を走らせひらく
／綿鍋和智子
- 9 メーテルとカムパネルラを忘れない銀河鉄道走り抜けてゆく
／古井 朔
- 10 傷跡をファスナーのぞとく開いては浸潤具合を確かめる鳥夜
／一ノ瀬美郷
- 11 繰り返すサイトカインストームと闘つてボクらの舌は苺色だね
／古井 朔
- 12 冷ますことなく飲み切ったコーヒーにしかない熱伝導率を覚えて
／綿鍋和智子
- 13 珈琲の夜の色した液体を飲み干すたびに浸潤する闇
／古井 朔
- 14 砂嵐 届くことない歌声をそれでもずっと奏でていたい
／一ノ瀬美郷
- 15 次の世もおそらく君は砂粒になつて駱駝の我を迎える
／綿鍋和智子
- 16 風紋をくずして進むきみの背に届かなくつて風の音だけ
／一ノ瀬美郷



揺らいでも良いから誰も歩かない道に足跡つけてみようよ

綿鍋和智子

2

ゆらがずに生きられることのしあわせと不幸をはかりかねて、夕景

一ノ瀬美郷

ひらひらと空知らぬ雪さゆらいで季節をめぐりあなたにもどる
／ 古井 哲

風にさえ震えてしまふ胸中のあれはおそらくひとひらの蝶
／ 一ノ瀬美郷

古井 哲

／ 古井 哲

ゆらがずに生きられることのしあわせと不幸をはかりかねて、夕景
／ 一ノ瀬美郷

綿鍋和智子

1

7

美しい暗示でしょか一齊に風吹く木立のなかに立てば
木立にはやさしい陰のあることを教へてくれる風なのだらう
／ 碧乃そら

6

川瀬十萌子

青葉風そよ吹く中に立ち竦むあどけない少女のままいつまでも
／ 古井 哲

古井 哲

2

何百年経つてもお側におりますよ木立を渡る薰風として
／ 綿鍋和智子

古井 哲

3

撫でられて貴方とわかる天上は象牙の塔をいく人の群れ
／ 川瀬十萌子

鐘塔に囚はれし人のうたごゑがあはくなびく花園は春
／ 碧乃そら

川瀬十萌子（かわせともこ）

2024年8月より短歌を始めました。

手芸と散歩が好きです。

お相手の方へ手紙を書くような返歌を楽しみたいと思います。

X:@nagikawase

好きなお風呂はゆず湯。

1 はじけきる記憶を宝箱に詰めいつかの春に死ぬ気がして
／ 綿鍋和智子

2 宝箱に入らなかつた思い出たちはきっと今でもあの夏の海にいる
／ 古井 育

3 あの海に還りたいから短剣を刺さない人魚姫になつた
／ 綿鍋和智子

4 恋ひ恋ふて思ひ憧るうつしよでわたつみに捧げし声と鱗の代わり
／ 古井 育

5 わたくしに鱗があつた頃の海見たくて潜る午前二時半
／ 綿鍋和智子

6 春に死ぬきみの予感が永遠にあたらぬようにはつ夏を呼ぶ
／ 一ノ瀬美郷

7 はつ夏に生まれたきみのとなりには羽化したばかりのギンヤンマ
／ 古井 育

8 銀蜻蜓にぶく光つてわたしにも刃があつた頃を思った
／ 一ノ瀬美郷

9 前奏として冬の腕『かいな』が振り上げる異国の雪の銀の旋律
／ 川瀬千萌子

10 前奏のあと主題に入らずに終わるシンフォニーを弾かせて
／ 綿鍋和智子

11 秋の夜の月かげとろり混ぜたなら記憶はメイプルシロップの味
／ 碧乃そら

12 ほんのりと温もり残るパンケーキ思い出ふりかけナイフを入れる
／ 古井 育

13 そう言えばあれはパンケーキだつたね熱があるので切り開いたわ
／ 綿鍋和智子

綿鍋和智子と言います。
短歌は長い中断のあと、
2022年から再開しました。
自分の短歌からこんなに短歌が
繋がっていく過程が見られるのが
本当にありがとうございます。
また言葉を繋げたいです
threads:mefuchsia29
X:MeFuchsia
好きな動物はたぬきです



4 直筆の手紙を百年経つてたから燃やして君から解放される
／ 綿鍋和智子

5 百年後きみが消え失せた世界でまだきみだけに執着をする
／ 一ノ瀬美郷

3 山なみにゆつくり沈む夏の日にきみへの手紙を燃やしたくなる
／ 一ノ瀬美郷

2 輪郭を際立たせて君のための夏至がちかづく夕暮れはまだ
／ 綿鍋和智子

8 太陽を赤いと思ったのは君のルージュがあまりに照っていたから
／ 綿鍋和智子

7 暮れなずむ景色の中であざやかな太陽よりも紅いくちびる
／ 古井 脙

6 潮騒に落ちる間際の夕凧の鼻梁の美しき稜線思う
／ 川瀬十萌子

1 暮れ方の空眺めてるきみの輪郭ゆつくり薄らいでゆく
／ 一ノ瀬美郷

10 たそかれにきみのぬくもり失ひて白百合の香がくつきりと立つ
／ 碧乃そら

11 たそかれとつぶやきながら角ごとにきみがいないか確かめている
／ 一ノ瀬美郷

12 消えかかるモノクロームのシルエット常永久にふたり可惜夜を待つ
／ 古井 脙

13 夜になればきっと誰でもよくなつてぼくを忘れてしまう、可惜夜
／ 一ノ瀬美郷

14 朝が来る誰でも良いわけなかつたと西から君の声がしている
／ 綿鍋和智子

15 まぼろしがほんとうと知るきみの言う永遠なんて信じないけど
／ 一ノ瀬美郷

一ノ瀬美郷(いちのせみさと)

短歌をはじめて3年、
雨とプリン体が好きです。
人見知りですが返歌の魅力に
どんどんはまっていっています！
X:@kimono_misato
好きな動物はカワウソです。

- 1 ワンピースかぶつて袖を通したら外にいられる私になれ
／ 綿鍋和智子
- 2 きらきらとした思い出をその襞のひとつに染み込ませるワンピース
／ 綿鍋和智子
- 3 新しくなるなる緑の真ん中に色づく前の紫陽花のがく
／ 綿鍋和智子
- 4 樺にはならない雨が永遠に降ると信じて土は乾いた
／ 綿鍋和智子
- 5 樺にはならない雨が永遠に降ると信じて土は乾いた
／ 碧乃そら
- 6 新緑のオルゴール卷いてあげよう囀りと木漏れ日の小箱を開けて
／ 綿鍋和智子
- 7 回廊で囮んだ庭に日が差して屋根の下こそ影が強まる
／ 綿鍋和智子
- 8 つながれて緑の回廊くるりくるりわれと何かがほどけてゆく音
／ 碧乃そら
- 9 真っ白の螺旋階段降りるとき近づいてくる地獄があつた
／ 一ノ瀬美郷
- 10 円を閉じ完結するのを選ばない螺旋階段どこかには着く
／ 一ノ瀬美郷
- 11 コンパスで囮つたとこが全てではないよまんまるだとしてもなお
／ 綿鍋和智子
- 12 ドーナツをふたうち食めばまんまるの穴がたちまち汚されてゆく
／ 一ノ瀬美郷
- 13 食べ切ればいくつのひだがあつたのか忘れるフレンチクルーラーね
／ 一ノ瀬美郷
- 14 きらきらとした思い出をその襞のひとつに染み込ませるワンピース
／ 綿鍋和智子
- 15 ワンピースかぶつて袖を通したら外にいられる私になれ
／ 綿鍋和智子

碧乃そら（あおのそら）
旧かな遣いで短歌を詠んでいます。
幻想的、ノスタルジックな世界観の
歌に憧れがあります。
返歌がつづくことで、こんなにも
情景がゆたかにひろがるんだなあと
感動しています。

X・mixi2にいます：
@hane_ao22